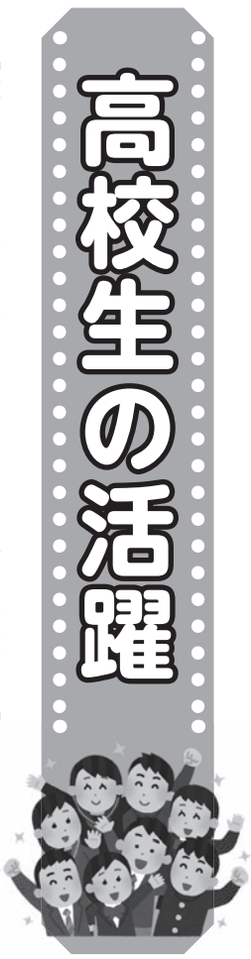
高校生の活躍

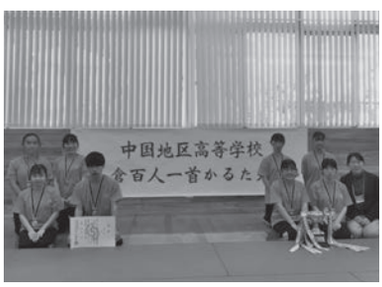


「競技かるた」の魅力発信　～地域と学校の「誇り」の共有～

山口県立小野田高等学校　小倉百人一首かるた部顧問　青池　のぞみ

「第23回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会」が、令和２年11月７～８日に岡山県で開催され、小野田高校が念願の優勝カップを手にしました。令和３年３月には、中国ブロック代表として、東京で開催される「全国高校生かるたグランプリ」に出場する予定です。この大会は、かるたの「春の甲子園」と呼ばれ、全国８ブロックを勝ち抜いた強豪10チームが、総当たり戦で日本一を目指します。

小野田高校単独チームでの中国大会優勝は初めてです。優勝を決めた瞬間、選手たちは涙を浮かべながらも、とびきりの笑顔で仲間をたたえあい、喜びを分かち合いました。今年は、コロナ禍で、夏の全国大会をはじめとする各種大会が中止となりました。目標となる大会がない中でも、部員たちは、少グループを組むなどの感染防止対策をとりながら練習を続けてきました。部員同士で何度もミーティングを重ね、時には本音でぶつかり合いながら、気持ちを一つにし、チーム力を高めてきました。練習後は気持ちを切り替え、図書室で勉強会を行い、先輩が後輩に勉強を教えながら学習課題に取り組みました。部活も勉強も、誰かが苦手な分野は、得意な誰かが補っていくという発想で、ピンチをチャンスに変えていくための工夫をしています。新型コロナウイルスの感染拡大は続いていますが、多くの方々に支えられ、こうやって練習できることに感謝し、高い志を持って日々の練習に臨んでいます。



中国大会の様子

本校のかるた部の最大の特徴は、様々な地域連携活動に積極的に取り組んでいることです。山陽小野田市は、かつて競技かるたの女性日本一である「かるたクイーン」を２名輩出し、小学生から高齢者まで競技かるたを楽しむ「かるたの町づくり」を進めています。初代永世クイーンとなられた久保久美子さんは、小野田高校在学中にクイーンの座に就かれました。そのような地域の誇りを受け継ぐべく、平成28年に本校に山口県初の「小倉百人一首かるた部」が新設されました。競技かるた選手としての技術の向上はもちろんですが、「かるたを通して人間性を磨く」を部訓とし、地域に貢献できる人材育成に努めています。主な活動として、山陽小野田市文化スポーツ振興課と連携して市主催のかるた大会やかるた教室などのイベントの運営スタッフをしたり、市内の小・中学校と連携してかるた教室を開催し、部員が講師となって小・中学生に競技かるたの魅力を伝えたりしています。また、地域の公民館の成人学級でかるた教室を開催し、高齢者と一緒にかるたを楽しんだり、外国人の方ともかるたを通して国際交流を行うなどの活動もしています。

小・中学生との交流会

地域と学校が連携して、「誇り」を共有することによって、地域に愛される学校づくりが進み、地域に育てられた高校生が活躍することで、さらに地域が元気になっていきます。地域のアイデンティティが、スクール・アイデンティティとなり、若者が地域を活性化する担い手となっていることを実感しました。学校の文化的な活動の持つ力には、大きな可能性があります。さらに本活動が深化・発展していくように、今後もこつこつと実践を積み重ねていきたいと思います。

外国人とのお坊さんめくり

公民館の成人学級

部活動ができる有り難み

山口県立熊毛南高等学校　女子サッカー部顧問　藤本　純乃介

熊毛南高校女子サッカー部は、山口国体に向けて、県内女子サッカー強化の一環として平成21年に立ち上げられ、今年で創部11年目です。部員は現在20名（1年生10名、2年生10名、マネージャー1名）で、そのうち12名が高校からサッカーを始めた生徒です。チームには部活動指導員、外部コーチ、トレーナーがおり、私は今年度から顧問になりました。コロナ禍であり、活動が難しい1年でありましたが、今年度の活動をふり返ってみたいと思います。

4月、新型コロナウイルスの影響で休校になり、集まって練習することができなくなりました。サッカーができないストレスを抱えながらも、部員たちは「zoom」というアプリを用いて週5日間、朝9時からトレーニングに励みました。トレーニングは、トレーナーの方に協力をお願いし、主に怪我予防を意識した内容で、自宅でできる筋肉トレーニングやストレッチをしてもらいました。トレーニングの様子はＫＲＹやｔｙｓのニュースでもとりあげられました。毎回ほとんどの部員が参加していたこと、トレーニング後自主的にランニングを行った部員がいたことに関心しました。インターハイ山口県予選が中止になった時は流石に落ち込みましたが、「冬の高校選手権を目指そう」となんとか気持ちを切り替えて頑張りました。

5月末から学校が再開され、サッカーの練習ができるようになりました。部活動の再開初日は、学校の近くにある企業のグラウンドを貸していただき、紅白戦をしました。私も部員たちも皆が一緒にサッカーができる喜びを感じながらプレーしました。それ以降、通常に近い活動ができるようになり、山口県内を中心に練習試合や合宿を行い、部員同士の絆を深めていきました。3年生のキャプテンが気さくな性格であり、チームは毎日笑顔の絶えない雰囲気で、部員全員が試合で伸び伸びとプレーするようになりました。また、高校からサッカーを始めた部員たちが日に日に成長していき、スターティングメンバー争いが始まりました。8月からは公式戦ができるようになり、それに伴って部員たちのモチベーションもさらに高まり、練習後に自主練習をするようになりました。

11月1日（日）、全国高校選手権大会山口県予選が開催されました。チームはこの大会の優勝と、中国大会出場を目標にしていたのですが、結果は2位に終わり、この日で3年生は引退となりました。試合後、1、2年生全員が泣きながら3年生に「ありがとう」と感謝の言葉を伝えていました。本当に、いい雰囲気のチームだと思いました。私は、その光景を見ながら、敗戦した悔しさを感じつつも、コロナ禍の中で大会が無事開催され、3年生が引退を迎えられたことにどこか安堵感を感じたことを覚えています。

1年を振り返ると、部活動が再開された5月末以降、とても充実した日を送ることができました。あっという間に時間が過ぎ、練習ができない期間が遠い昔のように感じます。しかし、現在も新型コロナウイルスは予断を許さない状況で、部活動ができることが当たり前ではないことを忘れてはいけないと思います。また、コロナ禍でも練習用の広いグラウンドを貸していただいたり、差し入れをいただくなど、地域の方々にたくさんのサポートをしていただき、より一層有り難みを感じました。日々の貴重な時間を大切にし、今の環境に感謝しながらこれからも部員たちと共に成長していきたいと思います。新型コロナウイルスの1日も早い終息を願っています。

大津緑洋高等学校　新生カッター部！新時代を築く！

山口県立大津緑洋高等学校　カッター部監督　濵砂　博昭

《大津緑洋高等学校でのカッター競技》

大津緑洋高等学校は平成23年、大津高等学校・日置農業高等学校・水産高等学校の県立３校が統合し、県内で唯一の、普通科・農業科・水産科のスリーキャンパスを擁する新しい高校として開校した。

もともと、水産・海洋系高校にはカッターという伝統的な競技があり、毎年地区ごと（全国を６ブロックに分けている）の予選を経て全国大会が実施されている。本校前身の水産高校では、一時、部員不足からカッター部の伝統が途切れていたが、統合後、各キャンパスで多くの部活動が展開する中、水産の伝統であるカッターをメインに、他のマリンスポーツも取り入れることにより、全てのキャンパスの生徒が男女を問わず参加して水産の魅力に触れることができ、全国レベルでの活躍も期待できる特色ある運動部として、平成25年に再建された。

ここに紹介させていただくカッター競技とは、長さ９メートルの12人漕ぎのボートに、艇長と艇指揮と呼ばれる操船者が乗り込み、漕ぎ手と合わせ総勢14人で、ボート競技にはない回頭を有する往復１、０００ｍのコースで争われる。残念ながら高体連競技ではないが、水産系や海事系の大学・高専・高校での教育現場では海洋訓練の一環として、心身の鍛錬とともに操船技術や航海術の基礎訓練としても利用されている。

《新生カッター部の活動》

さて、カッター部の活動の『目標』は、全国カッター競技大会での優勝である。６月及び７月の大会時をピークに見据えて、１月から徐々に漕艇練習を開始し、全国に挑戦できる漕艇技術を完成させる。特に３月から６月にかけては厳しい追い込みの期間である。この期間に島根県や福岡県等近隣の高校と合同練習会もたびたび実施している。

しかし、活動の『目的』としては、本校の施設設備を利用してカッターの帆走であるセイリングによる周辺海域への巡航（魚釣りも含む）や、スクーバダイビング・シーカヤック漕艇等各種マリンスポーツを計画的に実施することで、生徒たちの『健全な育成』をめざしており、新生カッター部では、これを大事にしている。大会後の夏休みには、練習や合宿等は行わず、８月の後半からセーリング・ダイビング・カヌーを実施してマリンスポーツを楽しみ、技術の向上とともに海に親しむ心を養う。この時期、部員たちはそれぞれ嬉々として輝いている。

そして10月より、苦しい陸上トレーニングを中心とした体力向上プログラムを開始する。この時期に筋トレ合宿を実施して、トレーニングの苦しさを突破する強い気持ちを体現させ、次のシーズンに備えるのである。

また、新生カッター部では、水産校舎生徒限定で、朝学習も実施している。毎日20～30分ほどではあるが、水産校舎生徒全員が集合し、自分の目的に合った学習の時間を設けて、資格試験や日々の予習復習に費やしている。

《新時代に向けて》

部員の構成において、水産校舎の生徒が多く、日置校舎（農業科）、大津校舎（普通科）が少ないのが悩みである。多くの大津緑洋高生にこの楽しさ・厳しさを知ってほしい。そのためには、魅力ある部活動をめざして、『厳しく・楽しく・規律をもって』を合言葉に、『目標・目的』を達成する手助けを少しでもできればと願っている。本校の特色あるカッター部を経験した卒業生が、次のステップで活躍することを望んで止まない。